

平成22年度 第2回

川合市長と語り合うタウンミーティング

～ 若手農業従事者からみた農業の現状と未来～



日時：平成22年7月8日

午後7時00分～午後8時30分

場所：いるま野農業協同組合福原支店2階会議室

## 参加者

J A いるま野福原青年部の皆さん 25 名

## 出席者

市長、秘書広報監、市民部長、産業観光部長、農政課長

## 意見数

分類	件数	内容	頁
保健・医療・福祉	1	保育園の入園基準	16
都市基盤・生活基盤	2	道路清掃	2
		市街化区域編入手続き	17
産業・観光	11	耕作放棄地対策	2
		市民農園	3
		サツマイモ	4
		物産展の開催	5
		新規就農者の誘致	6
		農業従事者の賃金助成	11
		農地の賃借料助成	11
		耕作放棄地への助成	11
		川越総合卸売市場の活性化	14
		福原地区の農業について	15
農業がしやすい環境づくり	19		
地域社会と市民生活	1	地域の学習	10
計	15		

## 意見交換（要約）

### 《耕作放棄地対策、道路清掃》

意見 中台に住んでおりまして、自分の庭先に畑があるんですけども、最近、耕作放棄地といいますか、高齢になってきた農家さんもいらっしゃって、なかなか畑の面倒が見られなかったり、頻繁に見て管理できないというところが放棄地になってしまうと思いますので、そちらのほうを管理していただけたらいいかなと思います。

というのは、自分の畑を管理し、さらに借りられれば借りて一緒に管理をするということになるんですが、地続きのところなどは借りて耕作しているんですが、なかなか全部は借りられないですし、最近のように強い雨が降ったりすると、草の種が流入して、草が生えている畑が隣にあると、葉物の害虫がそちらの畑から飛んできちゃって、やっぱり管理し切れなくなってしまうので、そういうことをやっていただけたらなという要望です。

もう一点は、先週と今週でこのところ雷雨といいますか、ゲリラ豪雨のような雨が降りますと、道路が川のようになってしまいます。皆さん、ここ何年か客土とかして、自分の畑には入らないように対策はしているんですけども、それでも畑に入ってきたり宅地に流れ込んできたりします。自分の家の前は市道なんですけど、大きいU字溝とかをまめに清掃していただけたらと思います。一回詰まってしまうと、U字溝があっても、次のときには詰まって流れないということがありますので、ぜひ清掃をお願いしたい。

自分の家は狭山市に隣接しているので、隣の畑はよく見えるというわけじゃないのですが、割と狭山市のほうは清掃が早いような、2月、3月は、こちらのほうは土が軽いので赤土の砂ぼこりでU字溝がすぐ詰まってしまいます。そうすると狭山市は、もう次の日あたりには清掃している姿が見えます。自分の家はそういう環境のところ、狭山市の活動をよく目にするので、その辺をやっていただけたらなと思っています。以上、二点です。

川合市長 耕作放棄地の関係では、やはり市が耕作をするというのはとても難しいですよ。せいぜいできるとしたら草を刈るぐらいですが、所有者がいる土地については、基本的には、その所有者に責任を持ってやってもらうという原則でやってきているんですね。同業の人に借りてもらって耕作をしてもらうというのが一番いいと思うのですが、放棄地が広過ぎるのですか。

意見 そうですね。全部借りてまでの管理はなかなか、自分の家のを含めて回らなく

なってしまいますから。

川合市長 田んぼの場合も、耕作放棄地がやはり問題になっていますが、米は広い面積でつくればつくるほど引き合うようになるというか、そういうことがあるから借りる人もないことはない。私が聞いているところでは、川越市内で一番大きく田んぼをやっている人は、20ヘクタールぐらいの大部分を借りてつくっているというんですが、畑の場合は余り広げてみても、効率が悪いというかペイしないんですか。

意見 個人の農家ですと、大体4人ぐらいで従事しているんですね。田んぼは年に1回、お米をとればいいだけなので、大型のトラクターなんかを入れてやっているのかもしれませんが、畑作の場合は、その畑を年に2回まわしたり3回まわしたり、葉物なんかは、置いといて違う仕事というわけにいかないの、やっぱり毎回仕事があるように皆さん作付しているので、そっちを放っておいて、放棄されているところを管理というと、個人の家ではなかなか管理し切れません。大体うちでいうと3ヘクタールぐらいだったら何とか管理できるかなというところで、20ヘクタールとなると、畑作のほうだとかなりの大きさになってしまうので、管理し切れませんという部分があると思うんです。

川合市長 雨に伴う対応というか、あるいはそこを早く掃除してほしいというのは、ご要望として担当の部署にしっかり伝えておきます。狭山の対応は早いですか。

意見 そのように、やっぱり隣は青く見えますね。

#### 《市民農園》

鈴木産業観光部長 放棄地の関係ですが、今、市民農園が盛んで、40ヘクタールぐらいあると思うのですが、市民農園をやりたい人というのはたくさんいますので、そういう方法というのはどうなんでしょうか。

川合市長 今は皆さん、車で農園まで行って手入れをするという人が結構いますから、この辺はちょっと中心市街地から外れているけれども、車で来てもらえば何とかなると思うんです。そうすると、そういう人をふやすためには、例えば農機具を貸しますとか、そういうことでも考えるということになるのですかね。

意見 駐車場がなくちゃだめ、井戸がなくちゃだめと。まず最初に水を持ってこない畑はできないですから、自分たちで水をタンクに汲んで持ってくるわけにはいかないじゃないですか。そうすると貸すほうも水道を用意してあげたりとか、結局そこまで考えてあげないといけない。

鈴木産業観光部長 市民農園として貸すには賃借料とかお金をいただきますよね。そういう中に水道代とかいろいろ投資の分も込みで貸すことになるのでしょうかね。

意見 そこまで整備しないと借りにこないですよ、みんな。

川合市長 今この辺で畑の灌水というか、水まきはタンクみたいなもので持って行ってやるんですか。

意見 大体井戸が掘ってあるというのが最近の主だと思うんですが、やっぱりみんなが全部まとまった形での畑ではないので、飛んでいる畑なんかは、それだけのために井戸を掘るといのはなかなかコストがかかるので、うちのほうは里芋の産地なので、里芋に水をあげるのに運ぶという人もいます。ただ、運んで水をくれても、自然の雨と全然違うのでなかなか、枯らしてしまうような場合もありますが、うちの前の畑は大体深井戸を掘って、水のほうはそんなに心配はないと思うんですけれども。

藤間農政課長 今までは畑地灌漑事業でもって結構やっている方は大分助かるかなと、そういう感じですね。

耕作放棄地なんですが、これは農業委員会で8月1日に調査をしますが、そのときに農政課もそのアンケートを入れさせてもらって、どのくらい耕作放棄地があるか、それを調査して、仲介なりをして法律に基づいた賃借契約で対応したいというようなことは考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

#### 《サツマイモ》

尾崎市民部長 皆さん、同じものをつくっているのですか。里芋の人もいるし、いろいろですよ。どんなものをつくっているのですか。

意見 うち葉物でホウレンソウ、小松菜です。

意見 うち水菜とホウレンソウ、そのぐらいですかね、周年を通して。

川合市長 サツマイモというのは余りこの辺ではつくらないのですか。

意見 うちぐらいです。

川合市長 サツマイモはあまり高く売れないのですか。皆さんがサツマイモではなくてほかの野菜を中心にされているということは、そちらのほうで収入には結びつくということですか。

意見 畑だけで回すならそうになってしまうかもしれないですね。しっかり周年を通して計画を立ててということを考えれば葉物なりを選ぶ。それは多分時代で、昔はサツマイモが多かった時代もあったんでしょけれども、ある程度エリアごとで、自分も中台なんです、中台には今、観光農家は多分十何軒ありますが、そこら辺は観光農として当時うまく回せていたのだと思うんですけれども、生産量としては多過ぎて、ただ市場に売るだけではコスト的なものが、多分庭先の直売で売ると市場で売るとは価格が全然変わってきてしまうので、そうすると年がらの収入でやれる葉物

のほうが確実だとは思いますが。

正直、うちの周りでサツマイモをつくっているのはその十何軒なんですけど、これからふえる傾向ではないですね。場所的なものもあると思いますけれど、あと、生産者の年齢もありますし、今は正直、50から上の方になってきちゃっています。

川合市長 川越は芋の産地だから川越芋だというふうに言っているけれども、川越市内の生産よりは、三芳町のほうが多いみたいですよ。

意見 昔は川越芋のもともとの基準が川越から南のほうにある武蔵野台地、だから当時の形で言えば、川越市、そして所沢、それとあとは三芳、ふじみ野のほう、新座のほうまでのエリアのことを多分川越と言っていたので、その当時からすれば川越芋というくくりにはなるんですけども、大抵は、川越芋というのは、川越でとれる芋だと思って来られる方のほうが多分多いです。

#### 《物産展の開催》

意見 川越市として今後、野菜だけではなくて、商工、観光、そのほかのいろいろな産業があると思うんですけども、そういうのを含めて物産展みたいなものをぜひ都内とかでやっていただけないか。川越という名前があっても、川越街道という道が通っていても、川越という商品は都内で買えないとよく言われます。

私の取引先の方には都内の方がたくさんいらっしゃって、私もその部分で都内に営業に行ったりすると、意外に川越という名前が知れているので売れたりするんです。

今、地方というのは、もちろんその地方自治体、JA、観光、商工、すべての産業をグローバルに一括化して、きちんと物産展を開いて、PR活動を多数都内などでやっていると思うんです。そういった活動を多分川越は近過ぎてやっていなかったと思うんですよ。だから、これだけ有名になっているので、やれば短期間で効率的に収益が上がると思うんです。やはり商品さえそろえば、川越という名のつくものは、お菓子一つにせよ、野菜一つにせよ、売りたいという方はたくさんいらっしゃると思います。

ただ、川越の弱い点としては、生鮮3品のうち、どうしても鮮魚と精肉の2品が薄くなってしまふ、やっぱり野菜になってしまふんですが、野菜という部分も今すごく注目されていますので、野菜に関してはそれだけの品目も集められると思いますし、うまくすれば、それこそ三芳町とかの川越芋と一緒にタグを組んで物産展などを都内ですとか、行く行くは地方とかで開ければ、必ず川越というブランドは大きくなると思うんです。結果的にそれがPR活動になりますから、近過ぎてやっていなかったことをやってみるといっても、ひとつおもしろいなと思います。

今、本当に地方は必死ですから、物が売れない時代ですので、我々よりもコストをかけてPR活動をしていると思うんです。それによってブームが起きて、特に安納芋なんかはそうですし、地方の加賀野菜であるとか京野菜であるとか、そういうものは今非常にブームになっていると思うんです。

野菜だけで大変恐縮ですが、そのほかの食べ物に関しても、ケーキであるとかパンであるとか、そういうように各地方からブームが起きていると思うんですね。そのブームの発信地として都内に近い川越がやっちゃいけないということはないと思いますし、近いからこそ簡単にできると思います。低コスト、ローリスク・ハイリターンでできると思うので、そういったものができないのかなと思っています。

そのためにはグローバルにいろんな方々を集めないといけないので、市役所という中立的な立場の方に、いろんな産業分野の方、産業団体の方を集めていただいて、物産展を開くというのはものすごくおもしろいというふうに思うんです。

川合市長 それはイメージとしては、どこか都内のデパートか何かの一角で、川越物産展というような形で何日か川越の物を売るという感じですか。

意見 それも一つですし、バブルの産物ですが、都内のビックサイトとかでスーパーマーケットトレードショーとか、野菜関係であるとか農産物の関係、産業関係のそういう展示会みたいなものが多数開かれていますね。そういうブースを借り切って、例えばいろいろな商工関係や、多分観光関係もあると思うんですが、それを地方の方が出てきてやっているんですね。そこにあえて川越が出て行ってもいいんじゃないかと思っています。

川合市長 過去にそういうことをやったということはないんでしょうね、聞いたことはないですね。

意見 集約することによって、例えば商工とか観光、農業であるとかを簡単に一カ所で見られればPRもすごく簡単で、すごくコストが安く済みますし、そもそも川越という名前は知られていますから、名前から売らなくていいという部分で、ものすごくリスクが少ないと思うんです。そういうところでやればマスコミ関係もすごく多いですから、リスクは少なく、リターンは大きいと思います。

川合市長 検討させてもらいます。

#### 《新規就農者の誘致》

意見 先ほどの耕作放棄地にも関係するのですが、我々の地域も非常に残念ですが耕作放棄地はふえています。その中で、川越という地の利を生かして農業を今後やっていくに当たって、既存の方は、もちろん大きくなるということは一つ課題としてある

と思いますが、あえてこういう川越に新規就農者を呼び込むために特区のようなものを、例えば川越市で3ヘクタール、4ヘクタールという大きい面積の耕作放棄地を一括借り上げて、そこを独立資源として新規就農者を支援するという方法もあるかと思っています。

まとまった土地に数人の方が入れれば、例えば機械なども共同使用ができたり、あと住宅も川越の市営住宅を使う、作業場も川越市が例えば市有地に共同作業場を設置するとか、そういうふうにすれば安価で独立支援というのを新規就農者の方にできると思うんです。

なおかつ、川越は都心に近い都市近郊農業ですから、地方で農業を始めるよりは必ず飯を食えるだけの収入は得られると思います。

せっかく新規就農しても、日々の生活に困るような収入では、やはり新規就農者はいないですし、農業自体が今後産業として発展していくということを考えたときには、やはり御飯が食べられるということが第一条件だと思うんです。その御飯が食べられるということを考えたときには、やはり新規の方が安価で、なおかつすぐに生活ができるような基盤整備ができるのは、こういう川越という地の利が一番いいんじゃないかと思っています。

地方の消費地が遠いようなところで、新規就農活動をたくさんやっていらっしゃいますけれども、それは過疎化対策であるとか、いろんな意味も含まれていると思いますが、あえてそういうところで補助金をたくさん使って農業者を育てるのであれば、さほど資本が要らずに、売れば御飯は食べられるわけですから、そういった川越という地の利を生かして、川越というネームバリューを使って、川越市としてそういった新規就農者の支援というのをやったらおもしろいんじゃないかと私は思います。

川合市長 確かに産業として発展させていくということを考えたら、それに携わる人口をふやしていくということもしなければならぬ。だから農業以外のところから農業に参入してくる人をふやしていかなければならぬとは思いますが、そのためのやり方として、最初から経営者としての農家というやり方もあるかとは思いますが、

例えば、皆さんのような独立してやっている方が少し規模を広げて、簡単に言えば、人を雇って生産額を上げていく、そういうようなやり方をして、ある程度技術が身についたら独立をしてもらおうとか、そういうような方法もあるのではないだろうかと思うのですが、後者の点についてはどう思いますか。

意見 今、既存の農家が法人化して、大きくなっていったりする可能性も一つあるん



ですが、ただ、我々の地域の畑の面積が最大でも 40 アールぐらいということで行くと、地方のように機械を大型化して大量に生産するというのはなかなか難しい。ただ、都市近郊ですから小さい農家でも収益が上がるんですね。多分、単位当たりの収量というのは全国でもトップクラスだと思うんです。小さい面積で高い収益を上げられる、一戸当たり 20 アールとか 30 アールの小さい面積でも十分食べられるだけの物が上がります。

だから、わざわざ法人化してリスクを背負ってまでする必要がなく、我々としては産業として一つ成り立っている部分があるということです。もちろんそういう単位当たりの収益が高いという部分で、新たな就業者を雇い入れて面積をふやして、収量のある程度上げることは可能です。また、その方を独立させるに当たっても、独立する方が生産しやすい環境をまた同じ地の利でできたら、より独立しやすいんじゃないか。経験者が、例えば 3 年とか 4 年とかの研修期間で雇われていた人が独立するに当たって、全く見ず知らずの土地よりも、身近なところで独立したほうがやはり心強いと思うんです。

そういうところに何年か支援をして、産業としてその人が成り立てば、必ず新たな人というのはどんどん寄ってくると思いますから、そうすれば耕作放棄地もどんどん減りますし、もしそれがキャパオーバーになれば、キャパオーバーになるというのはうれしいことですから、またそれはその時点で考えればいいと思うんです。今は、そのキャパが減っているというのが現実ですから、それを満タンにするまでの政策としてそれが一つあってもいいんじゃないかなというふうに私は思います。

川越というところはいろんな産業が入り組んでいますから、さっきの物産展もいろんな業界団体でやってもらいたいというのは、農業者もいろんな業界の人との接触、接点をそういう場所で得られれば、新たに独立したい人を受け入れることも容易にできますし、情報交換もできると思うんですね。新たな血が入るということは、やはり産業として新たな風を巻き起こす一つのきっかけになりますし、なおかつ、その後の波に乗るための大きな風になると思うんです。

我々の農業というのは、今までの既存のものだけで産業としてやってこれてしまったので、ただ、これからはやっていけなくなる時代になってしまったので、そういった意味でいろいろな情報交換の場としても、そういうものがあつたらいいんじゃないかなというふうに思います。

川合市長 先ほど私が、既存の農家が雇うという形で農業人口をふやしていく方法もあるというような言い方をしたのは、そのほうが新しく参入しようとする人にとっ

て、初めのコストがほとんどかからない。そして働いている中で技術を覚えて、それから、例えば近所に耕作放棄地があればそれをだんだん取り込んで、そこを借りるようにして独立していくというようなやり方でやれば、そのほうが参入しやすいのかなという感じがあったので、ちょっと言ってみたのです。

意見 あとは給与面ですね。やはりどうしても1人の方を雇い入れるというのはお金がかかります。

川合市長 大変ですよ。

意見 もしそういう部分で政策として押し進めるのであれば、例えば直接給与保障であるとか、2割とか3割とかを資金として雇用主のほうに、もちろん国の政策とかいろいろありますけれども、それには法人じゃないとだめだとか、いろいろな部分はあろうと思うんですが、川越市独自としてそういった方に直接補助していただけるのであれば、そういう新たな人間を雇いやすい環境づくりをしていただければと思います。我々としても、ただ単に雇って、ただ単に面積をふやせと言われても、やはり収入自体が気候変動であるとか、そういうものに左右されますから難しいです。

雇用者というのは毎月決まったお金をいただかないと、その人の生活もありますから、そういう部分で雇いやすい環境づくりをしていただければ、今、川合市長がおっしゃったようなことも容易にできますし、そういう窓口もぜひつくっていただければと思います。そういった希望者が川越市の窓口に来られれば、我々としても探す手間も省けます。どうしても新たに雇用するためには求人であるとか社会保険であるとか、そういったことに我々は不慣れなので、そういう部分をフォローしていただけるような部署なり部門があれば、雇うことも容易になりますし、また安心して雇えると思いますので。

意見 実際、募集を出しても来るのは50とか60の人がほとんどですからね。

意見 出し方だと思いますけど、例えば積極的に農業大学とかに出していけば、現に花屋さんであるとか、特に花屋さんの業界はそういうことに長けてますから、そういうのを結構やっている方がいらっしゃいます。ただ、そこまでやる規模ではないので、どうしても年商が低いですから、そこまで大きくドンとやる勇気もなかなかないので、そこをちょっとサポートしていただけるような、ちょっとぽんと背中を押していただけるような何かケアがあれば、そういう場所にも堂々と募集をかけられたりすれば、もちろん今、農業に二十歳前後の方で興味ある方はたくさんいらっしゃいますし、一次産業ですから、興味のある方は絶対いると思いますから。

## 《地域の学習》

意見 市長さん、こうやって集まっているけど、みんな農家の長男なのよ。この地域が大好きなの。みんな地元の消防団に属しているし、この地域が大切に育ってきているんだけど、自分の子どもは今小学校3年生で、小学校3年生から社会の教科書に川越というのがありますよね。そこにうちの福原地区の農業を取り上げられていても、中国人を雇って効率よくする農業って、川越の農業かなと思うんです。子どもころからやっぱりそういう教育を、農家というのはこういうものなんだよと、そういうところから見つめ直していかないといけない。おれらはじいちゃん、ばあちゃん、父ちゃん、母ちゃんを見てきたから、みんな自然とこういうふうに育ってきた。でも、実際この福原地区だって、もともと住んでいる人より、多分引っ越してきた人のほうが倍以上いると思うんですよ。その人たちに、ここの地区はこうなんだよというのを教えるような教育の仕方をしていかないと、実際、福原だけじゃなくて、ほかのところの地区だって、消防団だってもう成り立ちませんという声を多分市長さんだって聞いていると思うし、でも、なくすこともできない条例なんですよ。

そういうところをもうちょっとしっかりと、市というわけじゃないですけど考えていかないと、この先、自分のせがれも跡を継ぐのか継がないのかもわからないけど、そういうこと自体、多分きっと起きてくると思いますよね。だから、もうちょっと、ちゃんとしたルールじゃないけど、何かそういうのを確立していかないと、もうきつといけないような時期には来ているのではないのかなと思っています。

川合市長 今の意見は、一般化して言えば、要するに地域の人結びつきが非常に希薄になっているということの一つのあらわれだと思うんですよ。それは農業をやっている地域だけではなくて、昔からの市街地でも全くそうだし、それから30年、40年ぐらい前にできた団地の人たちについても、全く同じような現象なんですよ。だから、消防団だけではなくて、自治会そのものがうまく動かなくなっている、そういう面もあるのですが、それをどういうふうにしていったら、地域の結びつき、人と人との結びつきをある程度強くしていけるのか、なかなか難しい問題ですよ。それは、問題としてはとらえていくし、もちろん行政の努力も必要ですが、それぞれの地域で、皆さんがそれぞれ頑張ってもらわなければならない部分もあるというふうに私は思っております。

例えばお祭りであるとかいろんな地域の行事、草刈りでもいいですよ、そういうものにも誘い合って、なるべく新しい人を出させるようにするとか、あるいは昔であれば、町中だったら、おやじ同士が縁台で涼みながら世間話をしながら一緒に飲むとか、

そういうようなこともあったと思いますが、そういうようなものを復活させるとか、いろいろなことを考えていかなければならないのではないかと考えています。ですから、今言った問題というのは、にわかには解決できない、なかなか大きい問題で、もちろん教育の問題もありますし、それから個人主義というか、昔の家族主義から個人主義になってしまった、その一つの結果でもあるような気がするんですね。

例えば核家族が普通になっておりますが、どっちかのおじいちゃん、おばあちゃんにも一緒に住んでもらうとか、そういう住まいを形成している人には少し補助を出すとか、そういうような二世帯住宅、二所帯世帯みたいなものをふやしていくというようなこともやらなければいけないのかなと思ったりもしています。

いずれにしても、今のままだと行政としてもすごくコストがかかるし、大変な面が多いのです。ある程度、隣近所で関心を払って、何かあったときにはすぐ病院なり消防なりに通報してくれるとか、せめてその程度のつながりがないと、隣でだれが何をしていようが余り関係ないよという人ばかりになってしまうと、行政としてもとても困ってしまいます。

おっしゃっていることはよくわかりますので、例えば小学生に地域のことを学ばせる教材、あるいは勉強の中なども、川越の農業、あるいはそれぞれの地域の農業というものを正しく理解してもらおうような努力というのはしていきたいと思います。

#### 《農業従事者の賃金助成、農地の賃借料助成、耕作放棄地への助成》

意見 近年、団塊の世代と言われる方々がたくさんリタイアしまして、その方々の話を聞きますと、仕事が余らないと、あっても短期間で首になってしまったりとか、なかなか探すのも難しいという話を聞きまして、農業はその受け皿になれると思うんですね。

実際、うちも何人か雇用しているんですが、そのほとんどが60歳以上の方で、リタイアされた後にうちに来ていただいている感じなんですが、そういった問題を解決するためにも、市のほうでそういったリタイア後の方々を雇用した場合などは、賃金の助成をしていただけないかなと思うんです。

それからもう一つ、昨年、農地法が改正されまして、農地を貸し出した場合でも、その場所で農業が行われていると農業委員が確認した場合は、納税猶予が受けられるようになりましたね。これは戦後最大級の改革だと思いますが、規模を拡大しようと思っている農家にとってはチャンスだと思うんですよ。でも、農地を貸し出したくても、貸し出すきっかけみたいなものがなかなか難しいのかなと思うんですね。やはり貸す側にとっては、ある程度の見返りもほしいなと思うんですよ。はっきり言ってお

金なんですけれども。その際、その賃貸料と申しますか、そういったものを川越市のほうから少し出していただけたりすれば、それから借りる側からも少し出すような形にして、ある程度まとまったお金ができて、こういった形でなら借り入れしますよというようなことになれば、ある程度農地も動いてくるんじゃないかなと思うんです。規模を拡大しようと思っている農家にとっても非常にいい話ですし、これからの農業というのは、企業が参入してきて大規模に効率的に行っていこうという一つの流れと、それから自分のところでこだわった野菜、そういう特化した野菜をつくっていく、自分の独自の色を出して売っていこうという家族経営の農家と、その二極化していきと言われていますが、そちらの大規模でやっていきたいと思っている農家にとっては、今言ったことなんかは非常にプラスになるんじゃないかなと思うんです。

それから、耕作放棄地の話ですが、うちのそばにもたくさんあるんですが、もう荒れ果ててしまったり、たくさんの水が流れ込んでしまったりして、復興させるのが難しい状況なんです。そこを復帰させるための資金をある程度出していただければ、要は借り入れても、そこを復帰させるためにお金がかかってしまったのでは、元を取るまでに時間がかかってしまうわけです。ある程度その辺を助成していただけるといふのであれば、耕作放棄地なんかもどんどんなくなっていくんじゃないかなと思います。

先ほど、新規就農者の話もあったんですが、新規就農者に限らず、規模を拡大していきたいと思っている農家もたくさんありますので、まずそういう農家に資金を提供するというのが手っ取り早い方法なのかなと思います。

川合市長 今のご意見は、要するに耕作放棄地については、周辺の農家や同業者がそこを借りて使えるようになればいいというご意見ですね。

意見 実際、作りたくてもすぐにはつくれないわけです。土を入れかえたりですとか、土を改良したりですとか、そこにお金がすごくかかるわけです。

川合市長 放棄されて草ぼうぼうになってしまった場合に、それを農地として復旧するには、草を刈ってトラクターで根っこをぐしゃぐしゃにただけじゃだめなんですか。

意見 だめですね。最悪の場合、何か下に埋まっていたりしますと、借り手も土全体を入れかえなければいけなくなりますから。

川合市長 それは単に放棄をしたというだけではなくて、ほかの悪い土、廃土であるとか、廃棄物か何かをそこに置かせてしまったというような土地があるのですか。

意見 単純に草だけになってしまった土地もありますが、そのままだと要は草の実が

なかなか枯れないですね。それで土壌消毒を行って草の実をなくしたりしますが、そのお金がかなりかかりますので、そういった部分で助成していただければできるんじゃないかということです。

川合市長 それと、農地の貸し借りについての補助というのは、借りるほうにとって賃料補助を出すということですか。

意見 そうです。それを行政からアピールしていただいて、こういうお金も出ますよみたいな感じになれば、少しはまた農地も動いてくるのかなと思います。高齢化も進んでいますし、なかなか農業で食べていくというのは実際本当に難しいので、できればもう自分の代でやめたいなと思っていらっしゃる方も結構いると思うんです。そういう方にとっても朗報なのかなと思うんです。

川合市長 私のほうからいろいろ聞いたり、質問してしまって申しわけないのですが、こうやって比較的若手の農業経営者あるいは後継者の人が集まってくれるというのは、水田地帯では余り若手の人はいないんです、正直言って。もちろん農業をやっている人はいるけれども、役所や会社に勤めたりして、土日にだけ田んぼをつくるという形の農業です。ということは、水田地帯では米をつくっているだけでは到底食べていけない状況だから、そういうふうになってしまっているんですね。福原、今福のほうのこの畑地帯は、こういう若手の人が現にやってくれているということは、農業だけで何とか食べていける、そういう状況だからだと思うんですよ。つまり、畑で野菜をつくったほうが所得としては高いという、そういう理解でいいのですか。

意見 はい。もちろん高いんですが、かといって正直、生活していくのも農業収入だけでは相当厳しい状況であることはご理解いただきたいと思います。

川合市長 それを、規模を広げることによって収入を上げる、うまく省力化というか、人手ももちろんふやさなければならぬのでしょうが、そういう方向で農業を続けていく、あるいは発展させていくというようなことは余り考えられないですか。

意見 もちろんそう考えている方も大勢いらっしゃるとは思います。現に法人化して大規模でやっている方もいらっしゃいますが、そういった部分で、やっぱりある程度の助成がないと難しい。農業というのは基本的に利益を出していくのは非常に難しいです。少しずつの利益の積み重ねで何とか食いつないでいるだけで、気象の変動ですとか、いろいろなことで収入が左右されやすいということです。

川合市長 天候という、人の力ではどうにもならないことでかなり左右されてしまいますからね。

意見 それなら施設栽培にすればいいじゃないかという話なんですけど、そこに投資

するのも莫大な金額になりますので、なかなか難しいです。

意見 どんな産業でもそうだと思いますが、単純に、儲ければ必ずふえますし、儲からなければ減る。減っているということは、儲かってないというのが単純な考え方で、恐らくどんな産業でもそうだと思うんです。

だから行政として儲かるようなPRだとか、そういうところにも今後投資をしていただいて、お金になる、換金できる、野菜が高値で換金できるような環境づくりというのも一つの大きな要素だと思うんです。もちろん我々がいいものをつくるというのは大前提です。いいものをつかって、生産効率を上げて、コストも下げてやっていくべきで、もちろん経営者としてそれはあるべき姿ですからやっていきますが、それよりも今は、それにプラスアルファをと考えたときには、行政としてできれば売れるような環境づくりというのを、それをもう地方などはやっていますから、地方の県とか市はものすごい巨額な資金をそこに投入してやっていますので、それが川越市でできないということはまずないと思っています。そうすれば、飯さえ食べれば自然にふえていくと思います。

#### 《川越総合卸売市場の活性化》

川合市長 今、環境の問題が出ましたけど、また私から聞いてしまって申しわけないのですが、川越には川越総合卸売市場という市場があるんですね。市場の人に言わせると、川越の野菜はなかなか川越総合卸売市場のほうに持ってきてくれないと、みんなダイレクトに都内の市場とかそういうところに持って行ってしまう人が多いというふうに聞いているのですが、それはやっぱり都内に持ち込んだほうが高く売れるからですか。

意見 単純にそうだと思います。

意見 この川越という場所を考えると、川越の市場に持っていかなくても売れてしまうんです。例えばJAさんであるとか、うちなんかだと、都内のほうにも取引先がありますから、そういうところに行ったりしたほうが効率がよくて、単純に純利益が高いので、それも選択肢の一つになるわけです。それを、川越という名前だけにすがって、川越市場に卸してしまって純利益が減ってしまったら意味もないですし、それは経営者としてはやっぱり売り先というのをきちっと考えます。

川合市長 都内の市場に持ち込んだほうが高く売れるということは、商品たる野菜そのものが、都内のほうが全般に高く売れるということですか。

意見 いや、違います、競ってくれる人がたくさんいるからですよ。買いにくるお客さんがたくさんいるから高くなるんです。だって、市場ってそういうシステムじゃな

いですか。川越の市場みたいに競る人が1人、2人じゃ、幾らだって手も挙げもしないですよ。

川合市長　そういう質問をするのは、川越の市場というのは川越市の第三セクターなんですよね。もちろんほかの近隣の市も出資していますが、どうやったら市場を活性化できるかという課題がありまして、今、市場に入っているそれぞれの業者さんと市場の会社の人が一生涯懸命考えてくれておりますが、市としてもそういう問題について考えなきゃしょうがないなと思っているので、聞いてみたんです。

意見　市場を活性化するのであれば、そもそも荷物の入ってくる量も限られますから、それだったら何かに特化してしまうとおもしろいと思います。例えばサツマイモならサツマイモ専用市場にしてしまうとか、サツマイモはとにかく高く買いますと、そのかわりブランディングして都内の有名デパートにきちんと納めますとか、何かに特化した市場であれば、高く売れるということがわかれば、持ってこない人はいないと思いますし、つくっていない人だって、高く売れるんだとわかれば、その作物を増産すると思います。我々も経営者なので、きれいごとだけでは経営できないですから。

だから、いろんな商品を集める力があるのはやっぱり中央卸売市場だと思うんです。多品目の一つ一つの個々の量をふやしていくというのは力がないとできないし、非常に難しいと思うので、1品目に特化してしまえば、それを核にしているいろんなものを集める。何か売れるものが1本あれば経営って安定すると思いますから、そういうのもおもしろいと思います。そしてマスコミとかに注目されれば、より高値が出やすくなりますし、そういう取り組みをしている地方市場はないでしょうから、やってないことをやるというのも一つの手だと思います。

#### 《福原地区の農業》

意見　川合市長から見たこの辺の農業ってどう思われますか。

川合市長　先ほども言いましたけれども、若い人がちゃんと後継者としてやっているから、随分しっかりやってくれているなという印象ですね。

水田地帯は20町歩以上借りてつくっている人もいますが、基本的にはサイドビジネスですものね。

意見　さっきも言いましたけれども、幼稚園のときからJAいるま野の幼稚園だったんですよ。全国でも農協がやっている幼稚園ってそこしかなかったんですよ、ふくはら幼稚園。そこから育ってきているわけだから、ああ、農家になるんだというのが当たり前のわけですよ。



## 《保育園の入園基準》

意見 自分には子どもが2人いるんですけど、農家というのは土地を所有してるじゃないですか、なので財産という形で、要するにお金持ちというふうに見られて、保育園に入ったりする順番がどうしても後回しにされることが多いんですね。

実態は、やはり嫁さんが働いてくれるというのはすごい助かることで、従業員を雇わなくてもいいということで、コストダウンになるんですよ。でも、農家だから保育園に入れないということが結構多いんです。なので、そういった面でも農家だからお金があるからということ的前提に保育園に入れない、順番が後回しになるというところを変えてもらいたいなというのがあるんです。子どもを見ながら農作業をするというのはすごい難しいことなんです。

川合市長 保育園に入りやすいかどうかというのは、基本的には、お金がないというのは余りかかわりないんですよ。お金がないは、保育料に影響してくる。要するに所得が多い人は、保育料をいっぱい払ってもらおうという関係になっているのですね。

意見 実際問題、関係するのは世帯主なんですよ。ぼくは父に雇われているような状況で父から給料をもらってやっているんですけど、私の子どもという場合に、世帯主というふうに見られるのは、私の祖父が世帯主なので、すべての土地を所有しているということで、私自体の給料は少ないんですが、そういった面で順番が後回しにされるということがあったんです、

保育園の料金も、私は父から給料をもらっているということは、要するに雇われているということになっているんですけども、その金額ではなくて世帯収入、世帯主の収入ということで見られてしまうので、保育料も一番高額な金額を払わなきゃいけないことになるので、そういった場合、ぼくが保育園のお金を払うということになるんですけど、そうすると自分が給料でもらっている額はそこそこでも、世帯主の収入というお金のほうで計算されるのはなぜなのかなと思うんです。

川合市長 今、一生懸命民営の保育園を誘致しているというか、今年度中に四つ新しい民営の保育園がオープンする予定です。来年3月末の時点では待機児童は相当数解消される予定ですから、そういう意味では少しは入りやすくなるはずですよ。今はまだ保育園に行けてないのですか。

意見 行けてないんです。保育園には行けなかったんで、一応あけぼの児童園というところで今、市の援助を受けながら行ってはいるんですけども、保育園のほうに実際は入れるはずだったんですが、やはり農家ということで、家に祖父母がいたりする

と入れないんです。

川合市長 子どもさんの面倒を見る人がいるのではないかというのですね。

意見 でも、祖父母が見られる状況でもないわけです。80歳過ぎているおじいちゃん、おばあちゃんでは、元気で子どもを見られるわけでもないし、父と母は仕事に追われているわけじゃないですか。それで見られないからそういうところに入れてもらいたいということを言っているのですが、どうしても今の状況では、シングルマザーの方が多いいということで、そういう人たちを優先させてしまうというのは、確かにわかるんですけども、ただ、自営業である私たちは、家の人たちが仕事をしているのであって、その仕事量を減らしてまで子どもたちを見られないから保育園に入れたいという気持ちがあるんですけど、その順番が農家ということで後回しにされるということが実際にあったので、そこら辺を配慮してもらえればなと思ったんです。

川合市長 わかりました。今、私は入園のときの順番づけのやり方というか、何に基づいてそういうふうになっているのか詳しくはわからないので何とも言えないのですが、もしそういう同居の人がいるから後回しになってしまう、面倒を見てもらえる可能性のある人がいるから後回しになってもらうというようなシステムになっているとして、農家とか自営業者、実際には同居していても仕事をしているような人の場合は、そういう扱いにならないような工夫というか改善は、調べた上で、してみたいと思います。

#### 《市街化区域編入手続き》

意見 うちはここで90アールほど市街化区域に編入されてしまいまして、私としては農業を続けたいですし、そのほかにもいろんな話し合いをしてきたので、ここで一つ一つ苦言を呈しても、もう問題は解決しなくて、それが進行しているということで納得しているつもりではいるのですが、あえて申し上げます。

その話し合いを進める段階において、例えば市の都市計画課が来るのではなくて、最初は、いわゆる都市計画をするコンサル会社の人がうちに訪ねてきて、事業計画の説明をコンサル会社の人やってみたり、農地が市街化に変わって、商業地としてこういうふうにしたらさまざまな収益がこれだけ入りますとか、こちらが全く望んでいないことまで、そういうコンサル会社の方が調査という形で来たりして、非常に腹立たしい。我々としては農業を続けるために、あの土地でどう頑張っていこうかということを実行的に考えているのに、こちらが望んでもいないのに、そういった業者が来て説明する。あげくに最終的にはだめになりましたと、反対者が多いのでだめになりましたということで結果報告書を持ってきたのですが、あなたは市役所から幾らもら

って仕事をしているのと、我々の望まないことを勝手に仕事として、生業としてお金をもらって、それを計画はなくなりました、はい、さよならで済ませてしまう、その分を我々が農業をするに当たっての何か資金に使っていただけないのかと、非常に腹が立ちました。

市街化に編入されるときに会議にしても、都市計画課の人しかいらっしゃいませんので、そのあと都市計画課の方にご提案させていただいたんです。納税猶予がかかっているところもありますし、その後の税金もどれだけ増税になるのか皆さん不安がってましたので、とにかく都市計画課だけじゃなくて、税務署、資産税課、はたまた農政課も呼んでくださいというふうには言ったのですが、その垣根を超えて人を呼ぶというのはなかなか難しいようで、最終的には農政課の方は来ていただけませんでした。理由を聞いたら、農地として振興していくのではなくて、都市として振興していくわけですから、農政課の方はご遠慮していただきましたというのが都市計画課の方の話でした。

それは農業を続ける人間からすると本当に本末転倒な話で、あそこで納税猶予を受けてまで生涯農業をやろうという決断をしながらも、まあ国策だと思いますが、なぜ、国策ということで我々がそういう被害を受けなければならないのか非常に腹立たしくて、昨年からことしにかけて怒り心頭というのが一つと、あと、農地でありながら都市計画税というので、私は、都市計画なんかしていないのになぜ都市計画税を取られるんだとか、非常に腹が立つことばかりです。

確かに下水道設備であるとか、都市ガス設備の埋設であるとか、そういうお金を使うということは私も重々承知をしているんですが、農業をしていくために不必要な税金を取られていくというのが非常に腹立たしい。それを資産価値が上がるからいいでしょうと、都市計画課の方なんかは安易に言うので、それは、農業者にとってはそういう話じゃないだろうということは再三再四申し上げてきたんですが、恐らく何を言ってももう引っ繰り返ることはないでしょうから。

ただ、そういう農業者がいて農業をやっていくということであれば、じゃあ農業をやるには、こういう選択肢がありますよという情報だけでも一括して得られないものかなと思うんです。そういう事業を進めるのであれば、そういう一括した形での情報提供をしていただきたい。

川合市長 同じ市役所の中であれば、例えば資産税課の職員に同席させるとか、そういうことはできない話ではないですよ。

意見 最終的には同席していただいたんですが、農政課の方はやっぱりだめですとい

うことで、来ていただけなかったんです。

川合市長 税務署は国の役所だから、一緒にとかはなかなか難しいけれども。

意見 農地なので、そういうものを引くくめてそこはケアしていただきたい。我々に情報がないまま物事が進むというのは一番不安ですし、なおかつこちらが申し上げて情報を市が集めてくるのではなくて、こちらが陳情してそういうふうにしてほしいというのではなくて、市の政策としてこうしますということですから、市のほうで関係する情報を一括してこちらに提供していただくというのは当然であると思えますし、垣根を超えてお願いしますというふうに、そこまでなぜ我々が提言しなければいけないのかということも非常におかしいし、腹が立ちます。そういう垣根を超えたものを一括して提供できるような体制をきちっとつくっていただかないと、恐らくいろんな情報が滞ってしまう。情報を持っているのは川越市役所ですから、情報をいただきたいし、開示すべきです。

川合市長は川越市のトップですから、そういった垣根がない情報交換というのを、別に市役所の中でやらなくても、取りまとめて我々に情報が提供できるような環境づくりをぜひしていただきたい。それは農業分野だけではなく、どんな分野においてもそうだと思います。そういう縦割り行政の不条理さをここ1年ぐらいの間につくづく感じました。

川合市長 縦割り行政の弊害というのは昔から言われておりまして、なかなか改善が進まないというところですが、できる限り皆さんのご要望に沿えるように努力はしていきたいと思えます。

植松秘書広報監 手前味噌なんですけど、実は、広報川越が4月から月に1回こういう特集を始めました。広報川越というのは若い皆さんには不人気なので読んでくれないかもしれませんが、毎月1回、「おいしい川越 今が旬」ということで、地産地消も少し意識してこのシリーズを始めました。これから皆さんのところにも取材に伺うかもしれませんが、月に1回、一番裏のページに載りますので、少しご注目いただければありがたいなと思えます。PRしておきますので、よろしくお願いします。

#### 《農業がしやすい環境づくり》

意見 さっきも言いましたけれども、農業がしやすい環境をつくってもらいたい。これはまた違うところで聞いた話で、新座のほうですけど、例えば野菜の葉っぱの残を畑に置いておいたらアブが出て、そのアブに子どもが刺された、そのアブが出たのはおまえの家のせいだとか、そういうわけのわからない話とかって、ない話じゃないので、だから、もうちょっと農業のしやすい環境を、特区じゃないけれど、整えて

もらいたい。

自分のうちなんかもそうなんですけれども、うちは特別ちょっとお水をたくさん使います。それをU字溝に、沈殿システムはあるのですが、川越市の水道担当の人たちは、その沈殿システムを何千万円もかけてきれいな水を流してくださいと。うち一軒じゃなくて、うちの通りは端から農家なので、うちが企業としてそれをやるのは、やりなさいと言われれば、川越市がやらなきゃ会社をやっちゃだめですよというのならやりますけれども、端から農業の方がいて、農業の方は野菜を洗った水はそのまま流して、うちも同じ野菜を洗って流しているのに、うちだけやらなきゃいけないとかっていうのは、やっぱりおかしいと思うし、そういうシステムをみんなでここにつくりましょうというのであれば納得もいくけれども、企業はそういうふうにはやらなきゃいけないけれども、農家はやらなくていいとかいう全然わけのわからない、ルールがあってないようなことというものは、やっぱり直していかなくちゃいけないんじゃないのかなと思うんです。

この通りにもありますが、何とか物産だとか、何とか加工屋さんとかというでっかい会社は、それなりの浄水システムをつくらなきゃ営業ができませんよね。だけど、農家の人たちだって、同じ野菜を洗った泥水をそのままU字溝に流しているわけだから。それも確かにエコじゃないのはわかるけど、その水をきれいにしなきゃというのであれば、地域でみんなで水をきれいにするようなシステムをつくりましょうとか、一軒だけに、あなたはつくりなさい、あなたは農家だからいいですよとか、そういうわけのわからないことというものは、それでいつも水道担当の人とケンカするんですけれども、そういうのはやっぱり納得はいかないです。

この地区は野菜で一応成り立っているわけだから、みんなが野菜を生産しやすい環境にしてほしい。ひどい例では、水をくれるのに、周りが住宅地だから、消毒ではありませんというでっかい看板を立てて水をくれるんですよ。これを立てないと、隣が住宅地だから、変な消毒まかないでくださいって言われるからなんですよ。だから、もうちょっと農家さんたちが農業をしやすい環境を、補助金だけじゃない、何かそういうようなシステムがあればいいなと思います。

川合市長 今の問題は、なかなか解決するのが難しい問題ですよ。稲などをつくっているところだと、稲わらを田んぼで燃やすのは困るというふうに周りの住宅から言われてしまうとか、そういうこともあるのですね。

水の問題というものは、普通の農家だと家庭排水と同じという扱いだけれども、ある程度の規模以上になると、産業廃棄物ないしはそういうものと同じという扱いになっ

てしまうということなんでしょうか。

意見 多分産業の関係になってしまうんでしょうね。

意見 都市化が進めばいい部分も悪い部分も出てくると思いますし、現にうちなんかも、県道ですが、道路の水が大量に流入してしまうので、自己資金で客土をしたりとか、その客土をするのも大変な支出をしなきゃいけなかったり、うちのせいじゃないんだけどなど、そういう思いをしていますけれども。

ただ、農業をやっていくという決意をした以上は、それをやっていかなければならないわけで、そういった部分でわかっただけの方がいらっしゃれば、そういうことであれば手続は簡略化しましょうと、じゃあU字溝を太くしましょうと、あえてこちらから要望せずともそういう情報が常に行き交うようであるといいと思います。確かに行政ですから、そこは中立、公正な立場としては、余りルーズなことはできないと言われてしまえばそれまでですが、我々としてもそういう部分はルーズに過ごしていかないと、近隣住民の方となかなかうまくいかない。農業というもの自体、私自身ができなくなってしまえば、全くそこで農業する意味もなくなってしまいますので、その部分の緩衝材として川越市役所に立っていただければ、より都市化の進んだ地域でも農業はしやすいのかなと思います。

雨水の浸透槽があふれちゃって畑に入ってくるとか、そんなことはうちのほうだと日常茶飯事ですし、それにいちいち目くじら立てて怒りに行くわけにもいきません。じゃあこういうのをどこに相談するのかなとか、いろいろ考えることもありますけれども、そういう情報をいただければ我々としても、よりよいし、なかなか今の行政ではそういうのは難しいのかもしれませんが、そういう血の通った何か情報交換ができればいいなと思います。

そういう部分では市役所に緩衝材となっただけであれば、都市化が進んでいる地域で農業をやる者としては非常にありがたいなというふうに思います。そもそも、どこに相談したらいいのかからスタートなんですね。

藤間農政課長 農業に関しては農政課が基本的には窓口になります。

尾崎市民部長 いろいろ皆さんがおっしゃっているとおりに、今、自治会そのものもできなくなってしまうような人間関係の希薄さが出てきていると思います。だから、自警の消防団もなかなか難しくなって、接点というのがなかなかないような状況になっています。ですから、農家の皆さんと何とか話し合いができる場というか、例えばそのところで農産物を売ったり、普段からコミュニケーションができるような、何かをみんなで考えて、コミュニケーションをもう一回取り直すというのも一つなのか

と思います。

あと、大きな農家の方が鶏糞をまいただけで苦情が来てしまうとか、そういうのは普段からありますよね。その辺をどうしていくかというのが大きな、これからの人と人の付き合いをどういうふうにしていくかというのが大変なところだと思いますし、きょうも、市長がタウンミーティングを開きましょうと言ったのも、皆さんが日ごろから思っている情報を市のほうにもいただけるし、市のほうから出せるものはどんなものがあるのか。結局、頻度ですよね。皆さんとお会いする頻度というのを上げていかないと、誤解がなどいろいろあると思います。

ですから、福原の皆さんは若い人が一生懸命やっているので、みんな順風満帆かなと思いますけれども、実際、中にはそういういろいろな問題があるようですので、いろいろな機会を通じまして出せる情報をどう出していくかというのを、今後とも農政課を中心としてまとめさせていただければと思います。

川合市長 なかなか難しい問題がやっぱりたくさんあるなということで、短い期間に目に見えて変えるとかそういうのは難しいかもしれませんが、きょう伺った皆さん方の要望であるとか、あるいはお考えをできる限り反映できるように努めていきたいと考えています。

繰り返すようではありますが、本当に若い人が農業を一生懸命やってくれているというこの地域に関しては、私は非常にうれしくありがたいことだと思っていますし、関心を持っています。日本の農業をちゃんとしなければいけないという思いはありますが、その大部分は国の仕事だという思いも一方ではあるんです。そういういろいろな問題を抱える中で、今皆さんが直面する問題を一つ一つ対応しながら農業のために頑張ってくれているということに関しては、本当にありがたいことだと思っています。

また機会をとらえて、情報交換や意見交換をするような場を持っていきたいと思えますので、よろしくをお願いします。